

教室掲示
お願いします

SSH 通信

第10号
平成31年2月13日発行
編集：Ⅱ年5組

英語合宿

1月25日（金）～26日（土）に、課題研究のプレゼンテーションにおける英語スキルを高めることを目的とした英語合宿が行われました。1日目は学校で、2日目は広島大学学士会館で実施されました。

英語合宿の主な日程

【1日目】

- 8:30 オリエンテーション、英語ポスター作成
- 13:30 アカデミック・ライティング講座
(Jeffrey Hart 先生)
- 15:45 プレゼンテーション リハーサル
- 16:45 リハーサル講評

【2日目】

- 9:30 異文化コミュニケーション講座
(恒松 直美 先生、広島大学留学生)
- 13:00 課題研究プレゼンテーション
(Alex Dymond 先生、Tim Harries 先生)
- 16:10 全体講評

1日目

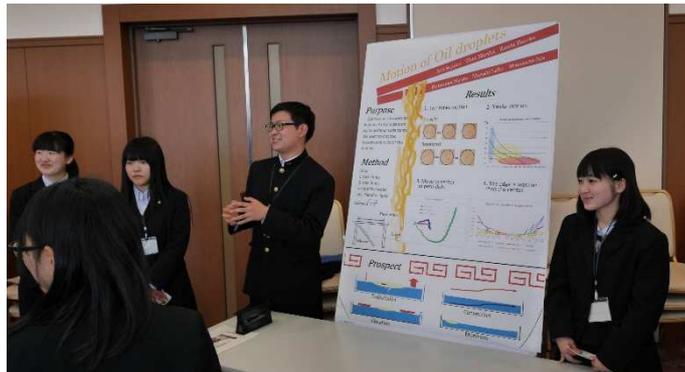
午前中はまずポスター制作から始まりました。ポスター自体は韓国訪日研修の際に制作したこともあり、みんな慣れた様子でしたが、先生からの「ビジュアルを意識しろ」というアドバイスを受けて、いかに分かりやすくデザインするか知恵を絞っていました。また、午後は RERF (放射線影響研究所) のジェフリー・ハート先生から科学的な英語表現についての講義を頂きました。いかに無駄を省いた、伝わりやすい表現をするかというお話は、研究要旨や発表原稿を作る上で非常に参考になりました。その後、ポスター発表のリハーサルを行い、1日目は終了しました。



2日目

2日目の英語合宿の午前中は、恒松直美先生による講義とグループワークでした。恒松先生は研究のみならず、留学生に対する様々なサポートをしておられます。最初に話されたことは、大学の国際化についてでした。広島大学には、世界に多くの協定大学があり、交流が盛んにおこなわれています。しかし、まだ多くの授業が日本語で行われており、外国人の学生が広島大学に留学しづらい状況だそうです。今後広島大学は、英語とする授業を増やし、留学生を積極的に受け入れるだけでなく多くの広島生に留学に行ってもらえるようにするそうです。次に話されたのは異文化コミュニケーションです。これはただ両者が英語を流暢に喋れても、きちんとコミュニケーションをとるためには、その背景の文化についても考慮する必要があるということです。音声言語だけが、考えを伝えるものではなく、お辞儀、身振り手振りなども人の考えを伝える道具であることがわかりました。講義の最後には、グループワークをしました。グループワークのテーマは国際交流を進めるための企画でした。いくつかのグループには広大の留学生が参加していました。最後のグループごとの発表では、料理教室、フェスティバルなどの様々なアイデアが発表され、恒松先生がどうやって主催するのかなどの、疑問を投げかけていました。

午後のプレゼンテーションは、ネイティブの先生方にも聞いていただきました。そこで私たちの英語の微妙なニュアンスの違いの指摘などたくさんのアドバイスを頂きました。今回、プレゼンテーションをする相手は私達の研究の概要を知っている生徒で既に私達のプレゼンテーションを聞いたことがあったので、以前に比べより深い議論がうまれました。ですが、日本語でさえ難しい実験の説明を英語でするのは難しいと改めて実感しました。



(作成：Ⅱ年5組AS委員)